

学校評価報告書

西多賀支援学校

1 本年度の目標

(1) 特別支援教育の専門性向上

- ① 児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究
- ② 研修による知識と教育技術の向上
- ③ 自立活動の概念理解と指導力の向上
- ④ 障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育
- ⑤ 外部専門家と連携した支援技術の向上

(2) 学習内容の改善と充実

- ① カリキュラム・マネジメントによる授業の評価と改善
- ② 自立活動の実態把握から指導内容に至るまでの評価
- ③ キャリア教育と職業教育の充実
- ④ 教務支援システムを活用した個別の指導計画に基づく適切な授業実践
- ⑤ 授業実践における三観点別評価の推進

(3) センターの機能の充実

- ① 心身症、精神疾患の子供への教育支援
- ② 一時入院児童生徒への教育支援
- ③ 就学指導等に関する教育相談機能の充実

2 本校の学校評価の運営について

(1) 実施時期

前期 7月、後期 1月

(2) 評価項目について

本年度の努力目標の達成に必要な具体的な取組を、自己評価の評価項目として設定した。保護者対象には保護者の学校へのニーズは何かという視点から質問事項を設定した(後期のみ)。

(3) 評価について (評価指標)

評価項目の各指標は、教職員対象では、A「よくできている」、B「だいたいできている」、C「あまりできていない」、D「できていない」の4段階、保護者対象では、E「わからない」を加えた5段階とした。ともに、A+Bを肯定的な評価を意味する評価指標と捉え、自己評価全体を捉えることとした。

3 前後期の結果

- (1) 前期自己評価 (教職員) 別表1
- (2) 後期自己評価 (教職員) 別表2
- (3) 自己評価 (保護者) 別表3
- (4) 検討事項に対する改善案 別表4

4 成果と課題の整理

自己評価は7月（前期）及び1月（後期）に実施した。前期の自己評価対象者は教職員のみである。前期の自己評価については、前年度末と比較すると、多くの項目で肯定的な評価が増加した。特に、「児童生徒及び教職員の個人情報適切に管理している」については、昨年度末比で10ポイントを越える増加となった。この項目は、昨年度、課題として取り上げられた項目である。改善案を全職員で共有し、継続して取り組んできた成果として表れたといえる。後期も肯定的な評価が100%となり、教職員の情報管理に対する意識と取組が継続できたと考える。一方、「年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。」についての前期の自己評価では、前年度末より評価を7ポイント下げた。これは、年間指導計画の整備について学部や教育課程ごとの差がある課題を意識した結果と考える。今年度、教務部や教育課程委員会が中心となり、年間指導計画の整備に向け取り組んだところ、後期の自己評価では、肯定的な評価が100%となり、学校全体で課題に取り組んだ成果といえる。

また、保護者の自己評価では、おおよそが肯定的な評価であった。保護者として、我が子が楽しく登校している様子を、安心して学校生活を見守っていることが伝わる結果であった。

5 改善策と今後の取組

課題に対する改善策について各学部、各分掌部で話し合い、学校評価全体会で情報共有し、次年度に確実に引き継いでいくことを確認した。「進路指導」について、特に進路体験週間について高等部を中心に、時期や内容、実習等の立案の手順や教材の様式まで、幅広く検討した。知病併置校となり5年が経過し、在籍生徒の実態が大きく変化してきており、進路指導についても生徒の障害や疾病の状況に応じた進路の実現に向けて、必要な指導内容の検討が課題となってきていた。生徒の実態幅の大きい重度重複障害の生徒に対する進路体験週間の在り方については、次年度も引き続き検討していくことを確認した。

「健康・安全」については、猛暑となった今年度、病弱支援学校に在籍する児童生徒に対し、充実かつ安全な教育活動を実施するための熱中症対策について検討され、スムーズな共有ののち年度途中から取り組むことができた。日に3回、同じ場所と時間に暑さ指数を計測し提示することで、熱中症の危険度について全職員で共有することができた。環境省の暑さ指数の実況と予測を参考にして「活動中止」「警戒・活動検討」「注意・活動可」の3段階を示すことで、必要に応じて活動の可否を学校として適切に検討する仕組みができた。

「組織運営」について十分でない面があったとの意見もあったが、働き方の見直しに向け、事務処理や情報共有の仕方の一部が年度途中に変更になったこともあり、連絡・調整が不十分になったという印象につながった面もあるのではないかと考える。次年度以降も、円滑な学校運営に必要な情報の共有に努めていくことを確認した。

6 学校関係者の評価

2月に学校評議員による学校関係者評価委員会を行った。学校運営に関しては、新型コロナウイルス感染症について、感染症法の分類が変更になるという情勢の大きな変更と、隣接する病院の制限との兼ね合いの中、今年度も充実した教育活動を実施することができたことへの労いと評価をいただいた。一方で、職員の自己評価が前期から後期にかけてポイントを下げたものが多かったことへの助言もあった。職員の課題意識が向上することで、一時的にポイントが下がることはあると考えられるため、一概に良くない傾向とも言えないものの、年度内に解決策が見えることで、後期にポイントが上がる項目が次年度、少しでも増えることを期待するとの励ましがあった。

令和5年度 前期学校評価集計結果(教職員)

評価項目	A よくできている	B だいたいできている	A+B	C あまりできていない	D できていない	E 無回答	R4年度末 A+B	A+Bの R3年度末比改善率
1 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。	23	20	100%	0	0	0	100%	ポイント
2 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心 情は向上している	13	30	100%	0	0	0	100%	ポイント
3 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉 「明るく・強く・がんばる子」を反映している。	18	25	100%	0	0	0	100%	ポイント
4 保護者は学校の教育目標、学級の目標及び 個人の目標を理解している。	14	29	100%	1	0	0	98%	2ポイント
5 年間指導計画等を適切に作成することによ り、授業時数を確保し計画的に指導を行っ ている。	9	30	91%	4	0	0	98%	-7ポイント
6 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりや すい授業を行っている。	11	32	100%	0	0	0	100%	ポイント
7 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職 員は共通理解を図っている。	17	25	98%	1	0	0	95%	3ポイント
8 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、 児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニ ーズを反映している。	19	24	100%	0	0	0	100%	ポイント
9 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に応 対している。	19	24	100%	0	0	0	100%	ポイント
10 学級だより、学校だより及び通知表等は児童 生徒の様子や学校の情報を適切に伝えてい る。	26	17	100%	0	0	0	100%	ポイント
11 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生 徒に関する情報を有効に活用している。	21	22	100%	0	0	0	100%	ポイント
12 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくよう に指導している。	17	26	100%	0	0	0	100%	ポイント
13 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を 行っている。	18	25	100%	0	0	0	98%	2ポイント
14 いじめの実態把握のためのアンケートや個別相 談等の対応を適宜行っている。	26	17	100%	0	0	0	100%	ポイント
15 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分 にとれている。	14	28	98%	1	0	0	98%	ポイント
16 児童生徒への進路に関する情報提供は適切 である。	23	20	100%	0	0	0	100%	ポイント
17 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後 を見据えたものになっている。	19	24	100%	0	0	0	100%	ポイント
18 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管 理している。	26	17	100%	0	0	0	88%	12ポイント
19 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切で ある。	14	29	100%	0	0	0	95%	5ポイント
20 会議内容は充実しており、年間を通して会議 を精選している。	12	29	95%	2	0	0	95%	ポイント
21 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努 めている。	24	19	100%	0	0	0	98%	2ポイント
22 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保 している。	22	20	98%	1	0	0	100%	-2ポイント
23 教室環境は安全で清潔である。	21	22	100%	0	0	0	100%	ポイント
24 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健 康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急 体制の整備を行っている。	29	14	100%	0	0	0	100%	ポイント
25 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニ ユアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適 切に行っている。	24	18	98%	1	0	0	98%	ポイント
26 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にと れている。	16	26	98%	1	0	0	95%	3ポイント
27 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給 食指導をしている。	15	27	98%	1	0	0	100%	-2ポイント
28 児童の送迎バスへの乗降については十分な安 全配慮をしている。	21	22	100%	0	0	0	100%	ポイント

令和5年度 後期学校評価集計結果(教職員)

評価項目	A よくできている	B だいたいでき ている	A+B %	C あまりできて いない	D できてい ない	E 無回答	R5年度前期末 A+B	A+Bの R5年度前期末比改善率
1 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。	19	17	100%	0	0	0	100%	ポイント
2 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心情は向上している	11	24	97%	1	0	0	100%	-3ポイント
3 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉「明るく・強く・がんばる子」を反映している。	17	19	100%	0	0	0	100%	ポイント
4 保護者は学校の教育目標、学校の目標及び個人の目標を理解している。	14	22	100%	0	0	0	100%	ポイント
5 年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。	12	24	100%	0	0	0	91%	9ポイント
6 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりやすい授業を行っている。	9	26	97%	1	0	0	100%	-3ポイント
7 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。	14	20	94%	2	0	0	98%	-4ポイント
8 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。	14	21	97%	1	0	0	100%	-3ポイント
9 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。	18	17	97%	1	0	0	100%	-3ポイント
10 学級だより、学校だより及び通知表等は児童生徒の様子や学校の情報を適切に伝えている。	22	14	100%	0	0	0	100%	ポイント
11 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生徒に関する情報を有効に活用している。	16	20	100%	0	0	0	100%	ポイント
12 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくように指導している。	13	23	100%	0	0	0	100%	ポイント
13 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を行っている。	16	20	100%	0	0	0	100%	ポイント
14 いじめや実態把握のためのアンケートや個別相談等の対応を適宜行っている。	18	18	100%	0	0	0	100%	ポイント
15 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。	13	21	94%	2	0	0	98%	-4ポイント
16 児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。	18	18	100%	0	0	0	100%	ポイント
17 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。	16	19	97%	1	0	0	100%	-3ポイント
18 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管理している。	19	17	100%	0	0	0	100%	ポイント
19 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。	13	20	92%	3	0	0	100%	-8ポイント
20 会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。	9	24	92%	3	0	0	95%	-3ポイント
21 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努めている。	17	19	100%	0	0	0	100%	ポイント
22 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。	21	14	97%	0	1	0	98%	-1ポイント
23 教室環境は安全で清潔である。	18	18	100%	0	0	0	100%	ポイント
24 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。	23	13	100%	0	0	0	100%	ポイント
25 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。	19	16	97%	0	1	0	98%	-1ポイント
26 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。	14	22	100%	0	0	0	98%	2ポイント
27 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。	14	22	100%	0	0	0	98%	2ポイント
28 児童の送迎バスへの乗降については十分な安全配慮をしている。	20	16	100%	0	0	0	100%	ポイント

令和5年度 学校評価集計結果（保護者・回答29/32）

別表3

評価項目	A よくでき ている	B だいたい できている	『A+B』	C あまりでき ていない	D できていな い	E わからない	『A+B』の 令和4年度未比 改善率
1 お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。	20	8	97%	0	0	1	1ポイント
2 お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。	17	10	93%	0	0	2	5ポイント
3 お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきている。	15	11	90%	1	1	2	2ポイント
4 お子さんは、望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。	13	10	79%	2	3	1	2ポイント
5 教職員は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にされた指導やかかわり方をしている。	25	4	100%	0	0	0	ポイント
6 教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。	23	5	97%	0	0	1	1ポイント
7 お子さんにとって、有意義な学校行事（文化祭、スポーツ交流会、芸術鑑賞等）が計画されている。	19	9	97%	0	0	1	3ポイント
8 懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の変容などを分かりやすく説明している。	20	8	97%	0	0	1	5ポイント
9 個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。	19	10	100%	0	0	0	8ポイント
10 お子さんの様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより（紅筆）等により、伝わっている。	23	6	100%	0	0	0	ポイント
11 学校としていじめ問題等の予防や対策に取り組んでいる。	18	7	86%	0	0	4	1ポイント
12 お子さんが安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理(避難訓練等)に取り組んでいる。	23	6	100%	0	0	0	8ポイント

文章記述

1	お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。	・毎日のように、誰がお休みしたとか、元気に来た話など伝えてくれます。 ・休まず通学しています。
2	お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。	・本人に合った課題を与えていただき、楽しく繰り返すことで少しずつ成長しています。 ・学んだことをいろいろ話してくれます。 ・教科により、好き嫌いはあるようです。
3	お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきている。	・学力は難しいところですが、本人が少しずつ成長しているのは驚きです。 ・自分の思っていることを、しっかり伝えてくれます。 ・頑張っていると思います。
4	お子さんは、学校外でも望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。	・先生方に見守っていただき、その都度、適切な指導をいただいています。 ・知らない人にも、しっかり挨拶できています。 ・学校ではできていると思う（家庭ではゆるい感じ）。 ・体調を崩しやすく、バランスがとれない。 ・入退院、体力回復の遅れ、けがにより、リズムの崩れを避けられない
5	教職員は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にされた指導やかかわり方をしている。	・少しの変化にも気づってもらっています。 ・本人のことをしっかり見てもらっている。 ・良い生徒でいようと頑張りすぎているところもある。 ・努力は感じます。
6	教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。	・日頃から声かけをしてもらっているため、本人も気軽に話せているようです。 ・小さな疑問や相談にも答えていただいています。
7	お子さんにとって、有意義な学校行事（文化祭、スポーツ交流会、芸術鑑賞等）が計画されている。	・いろいろな行事を計画していただき、楽しんで参加できています。 ・実行委員の経験は本人の自信になってようです。 ・参加の機会がありませんでした。
8	懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の変容などを分かりやすく説明している。	・個別によく考えて指導していただいています。
9	個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。	・まだ先のことでありますが、将来の準備など（年金など）必要事項を教わっています。 ・卒業後の進路について、たくさん悩みましたが、ベストな選択ができたと思います。 ・分からないことなど詳しく教えていただいています。
10	お子さんの様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより（紅筆）等により、伝わっている。	・連絡帳では毎日の様子を詳しく伝えていただいています。 ・いつも楽しみにしています。
11	学校としていじめ問題等の予防や対策に取り組んでいる。	・子ども達をしっかり見ていただけています。 ・いじめがないので・・・
12	児童生徒が安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理(避難訓練等)に取り組んでいる。	・避難訓練など適切に経験を重ねています。 ・とても安心できると感じている。

設問	○成果 ▼検討事項 ★改善案
(1) 【学校運営】	
年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。	<p>○適切な「教育課程」の実施に教職員各自尽力している。</p> <p>▼準ずる課程の選択科目において専門教科の科目が設定されており、科目本来の内容が生徒の実態に合っていないと思われる。学校設定科目が自立活動などより生徒の実態に合った科目にした方がよいと思われる。</p> <p>↓</p> <p>★教務部・高等部を中心に、高等部Cコース（病弱・準ずる教育課程）のカリキュラムを検討した。R7入学生より実施する。</p> <p>▼年間指導計画の様式について検討しているが、さらなる改善が必要だと思う。</p> <p>↓</p> <p>★教務部で「教科等の年間指導計画」の統一様式を検討した。R6から全教育課程で活用する。</p>
教育課程 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。	<p>▼高等部BCコースは教科担当制なので、各教科の特性に合わせた指導でよいと思うが、個々の生徒への共通した学習方法などを共通理解していく必要を感じる。</p> <p>↓</p> <p>★教務部を中心に、高等部Cコースの生徒に対する「個別の指導計画」の様式を見直した。これまで教科担当が教科につき1枚作成していたものを、生徒一人につき1枚を担当が中心に作成し、必要な事項について教科担当が加筆していく様式にすることで、個々の生徒への必要な配慮事項や指導の工夫などを紙面上で共有しやすいようにする。</p>
個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。	<p>▼個別の指導計画などは深く検討されていないと思われる。また常に意識しているようには感じない。</p> <p>↓</p> <p>★・学校様式の高Cの個別の指導計画の様式については、教務部で検討してきた新様式をR6から活用する。活用に際しては、個々の児童生徒の実態に応じた個別の計画（内容）となるよう、必要な段取りについて教務部でも再確認と十分な周知をしていく。</p> <p>・各学部では、それぞれの生徒の実態から目標や手立てなどをよく考えて指導計画を立て、それを意識した取組はされているが、よりより実践をめざして引き続き意識していく。</p>
連携 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。	<p>▼病棟生の様々な確認について、担任が行うのか、主幹教諭などが行うのかが曖昧である。また、食べ物の持ち帰りなど申し合わせ事項を明確にし、全職員で同じように対応してほしい。</p> <p>↓</p> <p>★病棟との連絡系統については、コロナ禍、病棟との出入りに大きな制限があったが、感染症法の変更に降、情勢に合わせて制限にも少しずつ変更があった。連絡窓口が複数可になったことで、連絡の取り方に曖昧さが生じたものと考えられる。次年度に向け十分に確認・周知していく。</p>

生徒指導	いじめの実態把握のためのアンケートや個別相談等の対応を適宜行っている。	○適時、訓練・アンケート等は生徒指導部を中心に適切に実施できている。
	児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。	▼交流が必要であるかどうかは別問題として、交流の機会は少ないと思う。必要であれば、集会等の取組について検討するのよよいと思う。 ↓ ★朝会を担当する総務部として、小中高が一堂に集まる機会である朝会はどの児童生徒にとって貴重な時間だと考える。今後も先生方1人1人の意識として、その部分を大切に捉えて実施していきたい。また、各学部でも、学部間の交流の他、他校交流も含め、充実した交流は重要と考えており、今後も児童生徒の実態に応じて実施していきたい。
進路指導	体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。	▼高等部の進路体験週間については、内容について検討が必要。 ↓ ★・進路ガイダンス(計画発表)を、進路週間の説明会とし5月半ば、8月末に行う。計画発表は行わない。 ・進路体験週間の計画の様式を変更する。それぞれの内容の目標、目的をはっきり記入できる内容とする。進路週間1月前に計画の締め切りを設定し、内容が妥当かどうかコース内で検討会を行い、その会には進路指導部も参加する。 ・個人で行う校外学習(施設見学も含む)については、詳細な計画を上の計画と同時に提出した上で起案する。 ・実習をできるだけ進路週間中に設定する(できない場合は前後。3年生前半は適宜)。 ・重度重複障害の生徒にとっての進路体験週間の在り方は、来年度1年かけて各コースなどと相談しながら検討していく。
	円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。	★・必要な情報については、関係する先生方には伝えているが、児童生徒の教育が滞らないように、さらに円滑に業務等が遂行しやすいように必要な情報の提供に努める。 ・働き方の見直し等の取組については、継続することで改善につなげたい。
組織運営	会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。	▼運営上どうしても会議の回数が多くなってしまいう現状は理解できるが、会議の回数が多い。 ↓ ★各会議の目的や内容、開催回数などを会議ごとに十分に検討し、次年度の年間行事計画の立案に生かす。また校内委員会の見直しも行き、R6からは2つの校内委員会を統廃合する。

健康・安全	<p>施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。</p> <p>○施設設備：校舎内、外、庁務さんの細やかな手入れが素晴らしい。</p> <p>▼体育館に冷房設備がないため、熱中症対策として使用するときの基準や方法などを確立するとよい。</p> <p>↓</p> <p>★体育部と保健指導部で協議し、夏季期間（6月～9月）日に3回、決めた時間に暑さ指数を測定し、熱中症の危険度について全職員で共有した。環境省から出されている暑さ指数の実況と予測を参考にして「活動中止」「警戒・活動検討」「注意・活動可」の3段階を示すことで、必要に応じて活動の可否を適切に検討することができた。</p> <p>▼来年度の教室割り当てについて、以前はプレイルームとして共用スペースだった現在高等部Aコースの教室を、次年度の児童生徒が減少することに伴って、どのように活用するのか検討が必要。</p> <p>↓</p> <p>★各学部主事が集まり、学部の事情や希望を持ち寄り、学校全体の学習活動のバランスを考慮しながら、児童生徒が安心安全に学習できる教室環境作りについて検討することで、R6の教室配置を決定することができた。</p>
-------	--

全 管 理	児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。	・今後、カニューレ抜去対応のマニュアルがどのように整備されるのか気になっています。 ↓ ★保健指導部と医ケアCNの主催で、カニューレ抜去時の対応について、医ケア巡回指導医の立ち会いのもと訓練を実施した。巡回指導医の助言を受け、対応のシュミレーションができた。
	災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。	○災害対応・防災関連については、ここ数年適切に更新・改訂されてきている。 ▼非常時の受け渡し訓練を実施してもよいのではないか。病棟生が多かった頃は必要なかったかもしれないが、大多数が通学生である現状を考えると必要と思われる。 ▼防災に関して避難経路のより安全な確保のため病院との連携が必要だと思う。 ↓ ★年度始めに行われる「学校病院連携協議会」での調整や、それに向けた事務室と管理課の事前の調整などで、必要な協議や検討を行っていく。
知 病 併 置	安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。	▼7月までに、給食の異物混入等が数件あった。 ↓ ★現在、本校の給食は外部の業社に委託しており、これまでの異物に関しては、調理段階で混入したものである。配膳担当や摂食指導を担当する教員がしっかり確認していることもあり、異物等が児童生徒の口に入ってしまったという状況には至っていない。今後も配膳担当と摂食指導の教員が互いに協力し、複数の目でしっかり確認しながら安心安全な給食指導を進めていく。
(2) 【学校教育目標の本年度の努力事項】 各学部、各分掌部で今学期取り組んだことや、今後の取組についての提案等		
学 習 内 容 の 改 善	授業実践における三観点別評価の推進	▼3観点別評価についての共通理解が十分でないままスタートした感がある。現在整備できるよう進めているところである。 ↓ ★観点別評価を行う学部・教育課程(コース)を中心に、教務部主催で学習評価についての研修会を行った。学習改善につなげるためにも、評価についての研修を継続していく必要性を確認することができた。
セ ン タ ー 的 機 能	心身症、精神疾患の子供への教育支援について。	▼精神医療センターへの学習支援について、特に今年度手厚く支援していると思う。一方、大学生が受けたり、急遽人数が増えたりなどへの対応も求められているようだが、今後教員数減になる中で、可能な支援について考えて行く必要がある。 ↓ ★・精神医療センターへの教育相談(学習支援)については、今後も本校の実情に応じ、対応していく。精神医療センターへの教育相談(学習支援)は、特別支援学校のセンター的機能として行っており、これまで通り、年齢に関係なく対応し、コーディネートしていきたい。今後も精神医療センターと話し合いを十分に行い、できる範囲で対応していくという方針で進めていく。